

⑮ 国道181号（岸本バイパス）道路改良事業

受賞機関 鳥取県 西部総合事務所 米子県土整備局

キーワード 交通渋滞対策、埋蔵文化財、ICT施工

全建賞審査委員会の評価ポイント

国道181号の交通事故・交通渋滞対策等を目的とした岸本バイパス（L=5.7km）の整備事業。整備にあたり多数の埋蔵文化財の包蔵地を横断したが、出土品を遺跡公園として整備し地元との調整を円滑にした点や、大規模土工の施工では県事業で初めてICT建機を導入し、人員削減と時間短縮を図るとともに、現場研修会に活用するなど情報発信した点が評価された。

1. はじめに

一般国道181号は、岡山県津山市から鳥取県日野郡を経由して米子市へ至る県西部地域における南北方向の主要交通軸となる道路である。また、災害時の緊急輸送道路としても重要な路線に位置付けられている。

鳥取県西伯郡伯耆町吉定から米子市諏訪の現道は、道路幅員が狭い上、住宅・商業施設が密集していることから全区間にわたって交通事故が多発し、慢性的な交通渋滞が発生していたため、5.7kmのバイパス事業として平成10年に事業に着手し、平成30年11月23日に全線開通に至った。



全線開通した岸本バイパス

2. 事業の概要

本バイパスは山間部にあり、多数の埋蔵文化財の包蔵地や大規模な農耕地を横断する計画であった。埋蔵文化財については発掘調査を行い、多数の出土品が発掘された。その一部は遺跡公園として整備され、地元で親しまれている。

また、平成29年度工事において、鳥取県事業として初めてICT建機を導入し大規模土工工事の主に法面整形

と地下排水工床掘を対象にICT建機を活用した。従来は掘削及び法面の仕上げは断面変化点に応じた複数の丁張が必要であったが、3次元設計データを搭載したICT建機を活用することで丁張設置作業が大幅に減少した。

3. 事業の成果

ICT建機を活用した結果、丁張設置及び撤去に必要な人員の削減に加え、掘削作業の見張り員が不要となったことにより転落、接触災害のリスクが減少した。さらに、作業員一人1か月分（延べ人数25人程度/1工事）を他の作業に充てることができ、現場を効率的に稼働させることができた。

また、県内初の先進的な取り組みであることから現場研修会等を積極的に開催し（参加者延べ約100名、県土木施工管理技士会、米子工業高校等）、将来の魅力ある建設業を広くPRした。



ICT活用工事の現場見学会

バイパスの全線開通後は、時間短縮効果（10分から5分の半分に短縮）により通過交通がバイパスへ転換し、特に朝の通勤時間帯においては、現道交通量が約5割減少した。現道沿線は住宅・商業施設が密集している地域であり、渋滞緩和と交通事故減少に大きく寄与している。

4. おわりに

岸本バイパスは、地元の方々の多大なる協力をしていただきながら、20年という長い期間を経て全線開通に至った。さらに、施工において発生した幾多の問題を解決し完成までやり遂げた受注者の技術力と情熱に、改めて敬意を表し、深く感謝を申し上げる。